

製品名: MEK キナーゼ 4 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab13794**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	MAP3K4
別名	MAP3K4; KIAA0213; MAPKKK4; MEKK4; MTK1; Mitogen-activated protein kinase kinase 4; MAP three kinase 1; MAPK/ERK kinase kinase 4; MEK kinase 4; MEKK 4
遺伝子 ID	4216.0
SwissProt ID	Q9Y6R4
免疫原	抗血清はヒト MAP3K4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1281-1330

背景

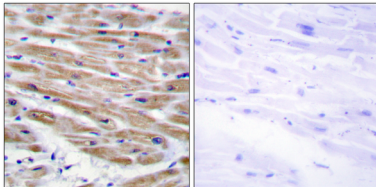
各マイトジェン活性化プロテインキナーゼ (MAPK) 経路の中核は、3つのプロテインキナーゼの保存されたカスケードです。活性化

MAPK キナーゼキナーゼ (MAPKKK) は特定の MAPK キナーゼ (MAPKK) をリン酸化・活性化し、これがさらに特定の MAPK を活性化します。ERK MAPK はマイトジェン刺激によって活性化されますが、CSBP2 および JNK MAPK は浸透圧ショック、紫外線照射、創傷ストレス、炎症因子などの環境ストレスによって活性化されます。この遺伝子は MAPKKK、つまり MTK1 とも呼ばれる MEKK4 タンパク質をコードします。このタンパク質は、C 末端にプロテインキナーゼ触媒ドメインを有します。N 末端の非キナーゼドメインには、調節ドメインが含まれる場合があります。哺乳類細胞における MEKK4 の発現は、CSBP2 および JNK MAPK 経路を活性化しましたが、ERK 経路は活性化しませんでした。インビトロのキナーゼ研究では、組み換え型 MEKK4 が PRKMK6 を特異的にリン酸化して活性化できることが示されました。触媒活性:ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子:マグネシウム。酵素調節:N 末端自己阻害ドメインは C 末端キナーゼドメインと相互作用してキナーゼ活性を阻害し、その基質である MAP2K6 との相互作用を防ぎます。GADD45 タンパク質は N 末端ドメインに結合してキナーゼを活性化します。Thr-1504 のリン酸化によって活性化されます。機能:タンパク質キナーゼシグナル伝達カスケードの構成要素です。CSBP2、P38、JNK MAPK 経路を活性化しますが、ERK 経路は活性化しません。特に MAP2K4 と MAP2K6 をリン酸化して活性化します。類似性:タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。STE Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MAP キナーゼキナーゼキナーゼサブファミリー。類似性: 1つのタンパク質キナーゼドメインを含む。サブユニット: 多分子複合体において上流の活性化因子と下流の基質の両方に結合する。AXIN1 および DIXDC1 と相互作用する。DIXDC1 との相互作用は AXIN1 との相互作用を阻害する。組織特異性: 心臓、胎盤、骨格筋、膵臓で高発現し、他の組織では低発現する。、

研究分野

MAPK_ERK_成長;MAPK_G_タンパク質;GnRH;

画像データ



MAP3K4 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト心臓組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。